



ふちんかん

アングラ八角の思い出

千里中央セルシー地下にあった「八角」、大将が炉端の内から大きなしゃもじを使って、炙り立ての料理を提供するスタイルは、私にとっての「ろばた」の原点であった。そして千里中央が活動拠点であった我々にとっては、よく利用していた居酒屋であった。せんちゅうパルの1Fにも「八角」ができてから



からは、我々は親しみを持って「アングラ八角」と呼んでいた。私事であるが、自身の結婚式の2次会をここでやってみたくて幹事のT道さんをお願いしたものだ（当然お店には断られた）。まあそれくらい思い入れのある店だったということだ。

このアングラ八角であるが、セルシー廃業に伴い8年前に閉店。事前に「送る会」と称して何度も宴会をやったものだ。

八角の全国展開

さてこの「八角」、千里中央に2店もあることや、近郊の南千里や、梅田のDDハウスにもあることから、けっこう大きなチェーン店だと思っていた。

しかしここ数年で、南千里店や梅田店は閉店してしまった。改めて「ろばた八角」で検索してみると…なんと朝鮮半島を含めても全世界に5店しかない



南海 泉北線

ことが判明した。なんということだ。私の大好きな「ろばた」というスタイルは、令和の時代には受け入れられないのだろうか。

しかし、運営会社「リバーストーン」のHPを見てみると、元からそんなに「八角」を展開していたわけではないようだ。ちなみに千里中央や曽根、日生中央のロッテリアなどのフランチャイズ運営もしている。また本社は千里船場にある。ようは地元の会社だったので、我々への露出が多かったということか。

さて関西にある「ろばた八角」は、前述の千里中央店、そして今回取材地である泉北線の光明池店、この2店舗である。これは行かないわけにはいかないではないか。

(というよりね、今回の取材で、ろばた八角に行くことが目的の一つだったわけです)

ろばた八角・光明池店

さて取材を終えて、目的の「ろばた八角」光明池店にやってきたのが、お昼の1時。休日の、しかも大雨での昼下がりのためかお店はガラガラ。飲む気満々の客は我々くらい。

まあ我々もアラかん中心の過去最高齢の取材陣なので、そんなに大騒ぎすることもなく、粛々と飲酒とごちそうを楽しみましたよ。

残念だったのは、お昼の営業のためか、ろばたがオープンしておらず、⇒図のような大しゃもじでの提供が受けられなかったことだな。勝手にアングラ八角をイメージしていたのだが、考えてみれば忘年会で利用する千里中央店もこんな感じだな。

炭と煙の匂いや網跡の焦げの味などは、アラかんのノスタルジーなのだろう。



(終)